

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたく力	①学習状況調査の結果から明確にした各学年の重点課題を共通理解し、計画的に教科指導を行う。問題解決的な学習で意欲を高め、基礎基本の確実な定着を図りつつ、身に付けた知識を活かす活動を取り入れる。②自分の思いを伝えるとともに、対話して問題解決に向かう力の育成を図る。	①重点課題を明確にし、継続的・主体的に取り組める課題設定等、計画的に指導した。めあてを明確にし、子ども自ら課題を見つけ解決できるよう工夫した。②道徳で身に付けた伝え合いの力を他教科等でも生かし対話しながら学習を進められるようになってきている。	B
豊かな心	①夢中になって問題解決に向かう子どもたちを育てよう、重点研究を進める。②社会や集団の中での役割を意識できるよう異学年交流を中心とした交流を行う。また、思いやりや共生の心を育てる「食」の学びの指導を、系統的に行う。	①道徳だけでなく他教科等でも、互いの思いを伝え合う活動を取り入れるよう努めた。②たてわり活動は、リーダーが自己有用感を感じたりメンバー同士の関わりが深まったりするよう支援した。また、丸小フェスタでは、「食」の学びで学習したことを工夫して発表した。	A
健やかな体	①体育では、運動特性に沿った指導をもとに、子どもが見合い教え合いながら動きを高める場の設定を重視し、充実感や達成感を味わうことができるようにする。②保健学習では、食生活のあり方も含めたよりよい生活習慣を主体的・対話的に考え、健康の保持増進を自ら図る態度を養う。	①運動量を十分確保する場の設定、目指す動きや見合うポイントを示す掲示物や学びの足跡を残せる学習カードを用いて子どもがめあてをもって学習できるようにした。②各学級で健康目標をたて、自らの生活習慣を見つめ改善する取組を健康委員会を中心に行った。	B
特別支援教育	①ユニバーサルデザインの視点から学習環境を整える。特殊音節の読み書きの獲得を円滑にするために研修したり、実践したりする。②教育支援計画、指導計画を定期的に見直し、一人一人の支援に生かしていく。職員会議での情報共有を行い、必要に応じて校内委員会で検討する。	①学習環境は継続して整えることができた。特殊音節の学習は1年生を中心に年間を通して定着を図れるように努めた。②職員会議や校内委員会での情報の共有や検討を行い、一人一人の支援に生かした。教育支援計画、指導計画はさらに活用していく必要がある。	B
児童生徒指導	①一年を四期に分け、ステップアップカード等で成長が継続して見られるようファイリングし、目標をもったり、振り返ったりすることで、自己実現の力を育てる。②配慮を要する児童の実態や支援の方法、「学校生活のきまり」を共有することで、一貫した指導ができるようにしていく。	①子ども達の姿を学校と家庭で共有するためにステップアップカードを有効に活用できた。②年度初めに「学校生活のきまり」を全クラスで確認する時間をとった。一貫した指導を年間を通して続けていくことが必要である。今後とも職員間の情報共有を密にしていく。	B
地域連携	①商店会・自治会・長寿会・幼保小交流・農協など、学習に関係する地域との連携を大切にする。②保護者や地域の方々との協力体制をさらに整え、地域の材を活用した学習についてよりよい時期や内容、方法等を検討し、児童や教職員が積極的に参加できるようにする。	①駅前花壇の活動を保育園と一緒にしたり商店街の協力を得て総合の活動を展開したりと充実した学びができた。②年間の見通しをもち、学習を計画したり児童や保護者に地域行事の発信をしたりした。外国語活動等のボランティアの協力も得て効果的な学びになった。	A
自分づくり教育(キャリア教育)	①「食」とのつながりを知り、感謝の気持ちをもつとともに、食の安全安心と課題について知る。②地域の人々と関わり、様々な職業について考える機会を設けるとともに、自分たちが住むまちのよさや伝統に気付くことができるようにする。	①各学年で、「食」の学びに取り組み、安心安全な食はたくさんの人々の努力で支えられていることに気付くことができた。②地域の一員として、地域の方々との交流を図ることができた。出前授業を通して、様々な職業の方々に関わり、興味関心を広げることができた。	A
いじめへの対応	①職員間での情報共有を密に行い、いじめ防止対策委員会を中心に組織的に対応する。②年2回行うY-Pアセスメントや児童アンケートにより、些細な変化を見逃さない体制づくりをする。自他の違いを受け止め、お互いの人権や尊厳を大切にする指導を行うことで、未然防止に努める。	①対策委員会を中心に、関係機関とも連携を図り組織的に対応できた。②アンケートや日々の見取りで不安を抱える児童に対して個人面談を行う等、いじめの未然防止、早期発見に努めた。学校生活で見られる児童の不適切な言動に対して粘り強く指導していく。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①若手によるメンターチームを組織し、全教職員で研修内容を共有し、人材育成に取り組む。②三部長と管理職で課題を共有し、各部署で組織的に課題解決に取り組む。③会議の終了時刻を設定し、事前に内容を共有する時間をとり、効率を上げる。グループウェアの活用を徹底し、打ち合わせ時間の短縮や伝達	①中堅教諭・ベテラン教諭を講師とした研修を行い、スキルアップを図ることができた。②三部長と管理職で学校経営上の課題を共有したことで、組織運営が図られた。③各種会議で目標終了時刻をより意識していきたい。グループウェアの活用も、徹底を図りたい。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度は、中学校で2回、小学校で2回の計4回の授業参観を行い、互いの授業や子どもの様子を見合って理解を深めることができた。研究協議では、小学校から中学校への連続性を意識して意見交換し、授業改善につながる一助となった。また、人権研修では、ブラインドサッカーのオリンピックを招き、話を伺ったりブラインドサッカーやポッチャの体験をしたりしたことも価値があった。今年度は、野庭すずかけ小がブロックに加わり、来年度は中学校の統合が行われるが、保護者や子どもたちの不安の軽減に向けて丁寧に対応していきたい。		
学校関係者評価	自分で出した物は自分で片づけることやあいさつなどは、基本として大事なことである。学校と家庭とで声をかけ、広めたい。体力面の低下は、中学校でも話題になっている。中休みの外遊びが増えたり、長縄タイムなどの取組もあり、意欲面で前向きになってきているので、来年度につなげたい。いじめ対応は、アンケートでは保護者に伝わりにくい面がある。情報発信の難しさもあるが、学校と家庭とで可能な限り情報共有し、連携することが大事である。保護者と教職員との関係を丁寧に積み重ねていくことが大事である。		
中期取組目標振り返り	自分づくりに関する力の育成を柱に取り組みしてきた。道徳の授業研究をもとに子どもがめあてに向かって取り組み、学習したことを振り返る学び方が定着してきた。子ども同士の対話を重視した授業の工夫が浸透してきた。今後は子どもが自ら課題を見つけ主体的に学習を進めるよう授業改善を図っていく。挨拶をはじめとした基本的な生活習慣の定着や子ども同士のトラブルの未然防止につながる指導や環境づくりに力を入れていく。食の学びを中心にまちや社会で働く人との関わりから子どもの学びを広げることができた。		